

Slide Sole Master 56°

スライドソールマスター

横田真一プロ監修 コンセプトは「原点回帰」



原点回帰

バンカーが苦手なら
ソールを滑らせる!!

答えは
56°
バンス 1°

待望の
56°

横田真一
プロ監修

株式会社リンクス（代表取締役 木村真一郎）は、横田真一プロ監修の新コンセプトウェッジ「スライドソールマスター」に、新たに 56° モデルを追加発売します。オリジナル 53° の「原点回帰」という設計思想を継承しながら、フェースを大きく開かなくても自然に球を上げやすく、より幅広いゴルファーが扱いやすいウェッジを目指して開発しました。



横田プロによるクラブ解説動画 公開中!

横田プロの

経験と問題意識

スライドソールマスターの開発は、ツアーで 83 ホール連続ノーボギーの日本記録を持つほどアプローチの名手であった横田プロ自身が、後にアプローチイップスに苦しんだ経験に端を発する。プロは、イップスの原因が「ダフリを恐れるあまり、ボールを右に置き、クラブのリリースができなくなる」という悪循環にあると分析。そして、その根本的な引き金が、現代のウェッジに当たり前のように備わっている「バンス」であると結論付けた。バンスが地面に当たることを嫌う意識が、結果的にスイング全体を歪ませていたのである。

この経験から、「現代のクラブヘッドは、やさしさを追求する名目で“余計なお世話”を焼き、ゴルファーから本来のスイングを奪っている」という問題意識が生まれた。

そして今回、この「原点回帰」の設計思想を継承しながら、フェースを大きく開かなくても自然に球を上げやすい 56° ・バンス 1° モデルを開発。53° が持つ操作性とソールの抜けの良さを活かしながら、より幅広いゴルファーが扱いやすい一本としてラインナップに加えた。

今のゴルフ業界
クラブ業界を
全部否定
します!!



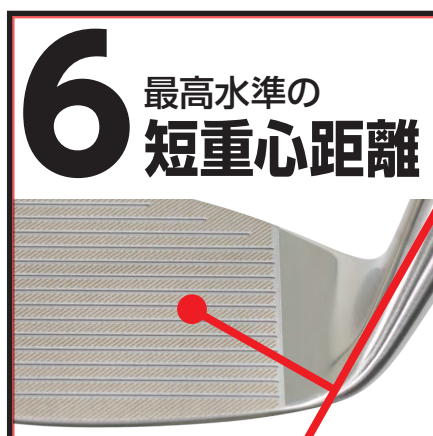
横田真一プロ

Slide Sole Master 56°



原点回帰

7つのキーポイント



自然なスイングへの導き

56°のロフトと1°のローバンス設計により、フェースを大きく開いたり、特殊な手首の動きに頼ることなく、自然な構えとスイングで球を上げやすくしている。クラブがゴルフアーク本来の動きを引き出し、シンプルなアプローチへと導くことを意図している。

バンスへの依存からの脱却

「バンスが多い方がやさしい」という一般的な考え方に対し、56°では必要最低限の1°に抑えている。ソールが地面に当たって跳ねる動きを抑え、薄いライでもヘッドを低い位置から入れやすくすることで、バンスに頼りすぎず、自らソールを滑らせる感覚を身につけやすい設計としている。



1 1° の ローバンス角

ソールが跳ねにくく、薄いライでも滑らせやすい。

効果： 53° の-2° に対して、56° ではバンス角を 1° に設定している。56° に必要な最低限のバンスを持たせながら、一般的な 56° ウェッジよりもバンスを抑えることで、ソールが地面に当たって跳ねる動きを抑えている。これにより、薄いライでもヘッドを低い位置から入れやすく、抜けの良さと扱いやすさを両立している。

2 56° のロフト角

フェースを開かず、自然に球が上がる。

設計： 56° のロフト設定により、53° よりも自然に球を上げやすい設計としている。

効果： 53° では球を上げるためにフェースを開く必要があった場面でも、56° ならスクエアに近い状態のまま構えることができる。フェースを大きく開くことに抵抗があるゴルファーでも、より自然な構えとスイングで球を上げやすい。



Slide Sole Master 56°

3 視覚マジックを応用した スコアライン

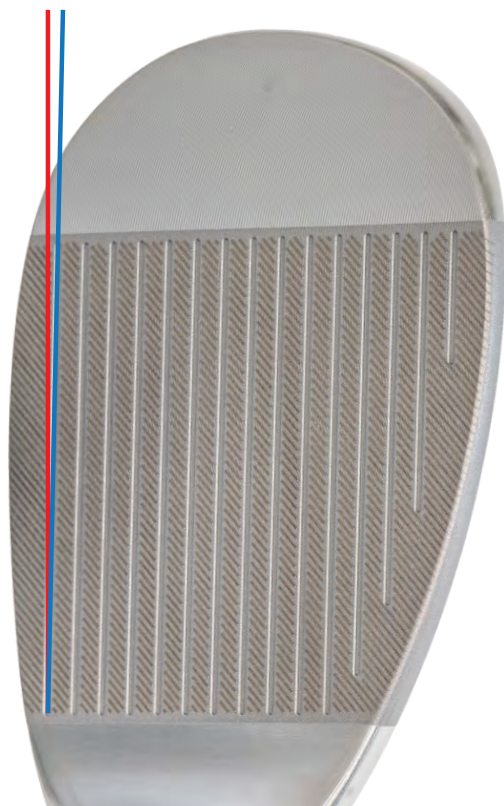
正しいスイング軌道へ自然に導く。

設計： 溝をわずかに右を向くように傾斜させている。
これにより、構えた際にフェース全体が若干右を向いているように錯覚する。

効果： 人は無意識に目標に対してスクエアにインパクトしようとするため、この視覚的錯覚がクラブをインサイドから下ろし、フェースを閉じる方向への正しいスイング動作を自然に誘発する。

補足： リーディングエッジはストレートに近く（わずかにフック）、構えにくさを感じさせないよう配慮されている。

1° 傾いた
スコアライン



4 開いても滑りにくい 特殊ミーリング

フェースへの食いつきとスピン性能を確保。

設計： フェースを開いたり、カットに打ったりした際に、ボールが溝にしっかりと食いつくようにミーリングの向きが設計されている。

効果： 基本的にはフェースを大きく開かずに使える56°でありながら、状況に応じてフェースを開いた際にも、特殊ミーリングによってボールへの食いつきを確保し、安定したスピン性能を発揮する。

5

極めて浅い 重心設計

操作感がダイレクトで、ソールの抜けが良い。

設計： バターナイフのような薄い形状により、重心が極めてフェースに近い「浅重心」となっている。

効果： 浅重心によってゴルファーの意図がヘッドに伝わりやすく、操作感がよりダイレクトになる。さらに、インパクト時にヘッド後方が垂れ下がりにくいため、ソールの抜けが良く、薄いライからでもスムーズにヘッドを抜きやすい。



バターナイフのような薄い形状で
極めて浅い重心設計

6

最高水準の 短重心距離

フェースが暴れにくく、まっすぐ前に動く。

設計： ヘッドの重心距離は 26mm と、一般的なウェッジ（35mm）に比べて約9mm短い。ヒールとトゥの高さが変わらないスクエアなヘッド形状と、やや長めに設計されたネックによって実現している。

効果： 重心距離が短いことで、ダウンスイング中にフェースが開こうとする抵抗を抑えている。これによりヘッドが暴れにくく、フェースがまっすぐ前に動きやすくなる。その結果、ざっくりやトップなどのミスを軽減し、安定したインパクトにつながる。

一般的なウェッジより約 9mm 短い
重心距離 26mm



Slide Sole Master 56°

7

多機能性を実現する ヘッド形状

フェースを大きく開かず、多彩なショットに対応。

設計： 出っ歯形状のリーディングエッジと、56°・バウンス1°のローバウンス設計を組み合わせ、フェースを大きく開かなくても球を上げやすいヘッド形状としている。

効果： フェースを開くことが苦手なゴルファーでも、スクエアに近い自然な構えのまま球を上げやすい。バンカーはもちろん、中途半端な距離のアプローチや芝の薄いライなど、さまざまな状況で扱いやすく、必要に応じてフェースを開いたショットにも対応できる。



アプローチに悩むゴルファー

球が上がらない、トップする、ざっくりする、フェースを開くのが難しい。そんなグリーン周りのミスに悩むゴルファーに、56°モデルは大きな安心感をもたらす。

提供価値： フェースを大きく開かなくても自然に球を上げやすく、素直な構えとスイングでアプローチしやすい。薄いライや中途半端な距離でも扱いやすい。

上級者・探求心の強いゴルファー

高い操作性を求める競技者や、クラブの機能とスイング理論の関係性を深く探求したいゴルファーにも響く。

提供価値： 56°・バンス1°という独自設計により、薄いライでも高い操作性を発揮する。通常の56°との使い分けで、より繊細なボールコントロールを可能にする。

56°はフェースを大きく開かなくてもOK。自然な構えのまま、球を上げていけるよ。

悩み別動画

56°



56° 解説編



アプローチ攻略法



バンカー攻略法



Slide Sole Master 56°

スペック

	オリジナル スチール	N.S.PRO 850GH neo	MODUS WEDGE 105 仕様	DG S200 仕様
ロフト角 (°)	56	56	56	56
ライ角 (°)	62	62	62	62
バンス角 (°)	1	1	1	1
クラブ長さ (インチ)	35	35	35	35
バランス	D0.5	D0	D1	D1.5
クラブ重量 (g)	465	440	455	470

素材

■ヘッド素材：ステンレス+ レーザーミーリング



■グリップ：オリジナルラバーグリップ



■シャフト：

オリジナルスチール



N.S.PRO 850GH neo S



MODUS WEDGE 105



DG S200



プライス

■メーカー希望小売価格：オープン

※MADE IN CHINA

■JAN：

4580185024832 Lynx Slide Sole Master 56° ORIGINAL STEEL
 4580185025396 Lynx Slide Sole Master 56° NS850GH neo S
 4580185024849 Lynx Slide Sole Master 56° MODUS WEDGE105
 4580185024856 Lynx Slide Sole Master 56° DG S200

Slide Sole Master 56°